

## 2019年度「建築コスト管理士」試験案内

「建築コスト管理士」とは、企画・構想から維持・保全、解体にいたる建築のライフサイクル全般に渡って、コストマネジメント業務に関する高度な専門知識及び技術を有する専門家です。

英国王立チャータード・サベイヤーズ協会（RICS）会員にダイレクトエントリーし、国際的に活躍している「Chartered Quantity Surveyor (QS)」称号取得が可能な資格です。

なお、建築コスト管理士資格登録には、当協会個人正会員であることが条件となります。

- ① 受験資格：試験は、次のいずれか一方に該当する方であれば、受験することができます。
  - (1) 建築積算士の称号を取得後、更新登録を1回以上行い、かつ建築関連業務(※1)を10年以上経験し、そのうち建築コスト関連業務において責任ある業務(※2)に2年以上の実務経験を有する方
  - (2) 建築関連業務(※1)を10年以上経験し、そのうち建築コスト関連業務において責任ある業務(※2)を5年以上の実務経験を有する方
- ※1. 建築関連業務には、建築士法で定められた、大学院修了課程の期間を算入することができます。詳しくは、当協会ホームページ記載の「建築コスト管理士認定規程第14条」をご確認ください。  
※2. 建築コスト関連業務において責任ある業務とは、発注者または設計者としてプロジェクトを担当する、施工者として現場管理等を担当するなど幅広い業務を含みます。
- ② 受験申込：申し込み方法は、当協会ホームページに掲載する申込フォームに必要事項を入力し、送信してください。なお、学科試験免除希望の場合は、申込フォームにその旨を入力してください。その申込を受けて、仮受付書と受験料払込用紙をご住所あてにお送りしますので、受験料を払い込んで受験申し込みが完了となります。(余裕を持って手続きしてください。)
- ③ 申込期間：2019年6月3日(月)から9月9日(月)まで ※受験料払込日は、仮受付書で示す期限となります。
- ④ 受験手数料：29,160円(消費税込)  
※過去2カ年度学科試験に合格され短文試験のみの受験手数料は16,200円(消費税込)となります。
- ⑤ 受験資格審査：受験申込が完了した受験申込者が申込フォームに記入した「建築関連業務」「コスト関連業務」「責任ある業務」についての実務経験に基づき審査します。
- ⑥ 試験地：札幌/仙台/東京/名古屋/金沢/大阪/広島/福岡/鹿児島/沖縄(全国10都市10会場)
- ⑦ 試験日時：2019年10月27日(日)

学科試験	12:50～15:20(2時間30分)
短文記述試験	15:40～17:40(2時間)
- ⑧ 合格者発表：2019年12月16日(月)10時頃に当協会ホームページにて合格者受験番号を公開します。
- ⑨ 資格登録手続：合格発表後に合格者へ合格通知書と共に郵送する登録関連書類に必要事項を記入して翌年1月15日までに登録申請して下さい。なお、建築コスト管理士は当協会個人正会員であることが資格登録条件となりますので、会員でない方については、同時に個人正会員入会申込みが必要となります。(入会金2,000円、年会費9,000円を月割り)
- ⑩ 登録手数料：15,120円(消費税込)

【ネットバンキングで受験料を支払う場合の振込み先】※受験者名でお振込みください。

受験手数料払込先：ゆうちょ銀行 ○一九店(ゼロイチキュー店)

当座/口座番号 0500957、口座名義/公益社団法人 日本建築積算協会

## 【建築コスト管理士として求められる知識の具体例】

- ☆ 原則として建築積算士に求められる知識を包含する ☆
- ✓ コスト情報収集・分析：商取引の基礎知識、コスト情報の入手方法、コスト情報の分析手法、コストに影響を与える諸要因
- ✓ 広範囲な市場価格：経済の現況、建設産業の現況と需給バランス、建物市場価格（マクロ）、建築構成材市場価格（マイクロ）、メーカー・専門工事会社見積価格と取引価格、不動産市況と取引実態
- ✓ 発注戦略：工事発注と条件の策定、契約文書と付帯条件、コストオン協定書と共益費、競争環境の醸成、入札手続きと評価
- ✓ 調達戦略：元請・下請階層関係、下請業種（メーカー・専門工事会社）、発注パッケージ
- ✓ フィジビリティスタディー：事業収支計画の概要、事業収支に影響を与える要因、建設工事費キャッシュフローと金利
- ✓ 概算技法：状況に応じた概算技法、コストデータの活用法、コストアロケーションとコストコントロール技法
- ✓ 施工技術・工期算定：特殊構工法、新技術、改修工事の特徴、解体工法、工期算定方法の概要、共通費（共通仮設、現場管理費、一般管理費）算定方法の概要
- ✓ LCC・VE及びFM・PM・CM・PFIの概要：LCC（ライフサイクルコスト）の内容と算定方法、VE（バリューエンジニアリング）の内容と技法、FM（ファシリティーマネジメント）の概要、PM（プロジェクトマネジメント）の概要、CM（コンストラクションマネジメント）の概要、PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）の概要
- ✓ 環境配慮：社会的側面と法的側面、環境対応技術のトレンド、環境配慮とコスト
- ✓ 建築関連法規：建築基準法関連の基礎、コストに影響を及ぼす法規の概要
- ✓ IT活用：情報技術のトレンド、IT機器操作・ソフト活用

## 【試験方法と出題範囲】

- ◇学科試験◇
  - ・試験時間・・・2時間30分
  - ・出題範囲・・・建築コスト管理士ガイドブック第1章～第4章（第5章建築コスト管理の事例を除く）、建築積算士ガイドブックのうち第6章～第8章、第10章を対象とする。
  - ・問題数・・・60問
  - ・問題形式・・・4肢択一
- ◇短文記述試験◇
  - ・試験時間・・・2時間
  - ・出題範囲・・・建築コスト管理士ガイドブック第1章～第4章（第5章建築コスト管理の事例を除く）、建築積算士ガイドブックのうち第6章～第8章、第10章を対象とする。
  - ・問題数・・・5問
  - ・問題形式・・・問題に対する解答を短文（200字以内）で記述。

## 【学科試験免除要件】

学科試験の合格基準点を超えた方は、次年度以降2年間学科試験を免除します。

## 【参考図書】『建築コスト管理士ガイドブック(税込5,040円)』『建築積算士ガイドブック(税込4,940円)』

- ※ 図書購入お申し込みは、当協会、Amazon.comへ。
- ※ 両ガイドブックを同時購入の場合、割引あり。

- ## 【注意事項】
1. 一旦納付された受験手数料は、当協会の責により試験を受けることができなかつた場合を除き、返還されません。
  2. 当協会ホームページに前年度の問題と解説を公開しておりますのでご参考にしてください。また各支部にて両ガイドブックについての講習会が開講される予定ですのでどうぞご活用ください。
  3. 試験会場では、スマートフォン、携帯電話の類は使用禁止ですので、試験時間中は事前に配布する袋に入れ机の上に置いていただきます。それ以外の当該機器が発見された場合には受験できなくなりますのでご注意ください。
  4. 色鉛筆およびマーカーペンの使用は許可します。

※試験採点の際には、足りりがありますので、学科試験および短文記述試験それぞれの解答には、ご注意ください。

お気軽にお問い合わせください

公益社団法人 日本建築積算協会 本部事務局  
〒105-0014 東京都港区芝3-16-12 サンライズ三田ビル3階  
Tel 03-3453-9591 Fax 03-3453-9597 e-mail [hp@bsij.or.jp](mailto:hp@bsij.or.jp)

★★★資格の詳細（定義、各規程類、その他）については、協会ホームページをご参照ください★★★

積算協会



検索

<http://www.bsij.or.jp/>